



「たんぼにまつわる話」 35.

「あれを取って食べんか」

岡山市 十川 巡一

田植え前になると、私の家から約3.5kmほど上流にある、旭川の水門を開けて用水に水を入れます。すると家の前の用水の水かさが増え、たんぼに水が入ります。

田植えが終わってしばらくすると、フナ、コイ、ナマズが産卵の為、たんぼに入ってきました。そこら中「バシャバシャ」と音をたて、オスがメスを追いかけて泳ぎ回っていました。1匹の大きなメスのコイに10匹ほどオスが群がっていることもありました。

さあ、私の出番です。冬の間魚に飢えていた私は魚を食べたくて仕方がありませんでした。小さめのフナに狙いをつけ、サッとアミですくい、調理して、炭火で焼きました。その後、鍋に砂糖と醤油、梅干しを数個入れ、ショウガを線切りに入れてフナを入れて、弱火で3時間ほど煮ると甘露煮の出来上がりです。久しぶりに食べたフナの美味しかったこと。

高1まで大久保で過ごした私は、川魚なら何でも食べました。今でも川魚が大好きです。

ある日、夕方に大きなアミを持って、たんぼの回りをうろうろしていると、パトカーが私のすぐ近くに止まったので「何か言われるかなあ」と思っていると、「何をされてるんですか？」と声をかけてきた。「やっぱり」と思い「コイを取っているんですよ」と答えると「ああ、そうですか」と言って、何処かに走り去ったので、別に悪い事しているんじゃないけど、なぜかホッとしました。60cmほどの大きなメスのコイを捕まえて帰って見せると、みんな驚いた。朝になって逃がしてやりました。

ナマズもよく捕まえて、蒲焼きにして食べました。ウナギより身が柔らかく、美味しいのです。ナマズの卵は緑色をしています、炊くと肌色のような色にな

り、食べるとモチモチして粘りがありました。「う〜んこんな味か!？」それ以来、卵は食べませんでした。

魚達も、数日はたんぼに入りますが、日が経つと数が減り、入って来なくなりました。たくさん卵を産んだんでしょうね！しばらくして、たんぼをのぞいて見ると、小さなメダカ（フナやコイの子）がたくさん泳いでいました。

次の年、また産卵の時季が来ました。たんぼから流れ込む溝からのぼってきました。

そんなある日の夜、父が「おい、あれを取って刺身にして食べんか」と言ったので、さっそく家の近くの溝で、たんぼに入ってくるコイを捕まえて、台所でさばき、薄く切ってサッと氷水にくぐらし、あらいを作り、夜10時過ぎに二人で食べました。父が「オイ！うめーなー」とビールを飲みながら言いました。私も「ウン！こりゃあうめえ」と言って、二人でカンパイ！きれいにかたづきました（本当に美味しかった。あの夜の事を今だに覚えています）。

30年以上も前の、むか〜し、むかしの、お話です。

川の水も、もっときれいでした。アユモドキもオイカワ（シロハエ）と一緒に泳いでいました。モクスガニやウナギもよく捕れていました。散歩の帰り、飼い犬と一緒に川下りをしていた頃もありました。

今では用水の傍のたんぼは、ほとんど民家です。家庭排水も流れているため、泳ぐこともできません。家の前でよく魚を釣って食べていましたが、もう釣って食べる気にもなりません。でも、残っているたんぼには、まだ魚が入って来るところもあります。その時季には小さなコイやフナ、ナマズも少しですけど見ることが出来ます。そんな時は嬉しいですね！



一番に入って来た大きなナマズ



最近ではたんぼで姿が見られなくなったマゴイ